

マゾメス男子の作り方




R-18

目次

第一章 『マゾメス男子の探し方』	・	・	・	・	・
第二章 『マゾメス男子の捕まえ方』	・	・	・	・	・
第三章 『マゾメス男子の誕生』	・	・	・	・	・
第四章 『洗脳』	・	・	・	・	・
第五章 『マゾメス男子のいる生活』	・	・	・	・	・
	37	26	20	7	2

「ああっ！ダメっ、イクつイっちやいますう！」

「おい、誰がイつていなんて言つた？」

「ごめんなさい！でも、だめなんですご主人様あ！」

ベッドで交わる男女、しかし普通のカップルの性行為と明らかに違うのは、女性は全裸に犬のような首輪をつけ、さらに股間には男性を表すシンボルが生えていることだった。しかもそれは子供のように小さく、ご主人様と呼ばれる男の物は女の肛門に差し込まれている。

女はふやけきつた顔に涎だけではなく鼻水や涙も流しながら全身を痙攣させ昇天している・・・これがこの空間での日常、普通の愛の行為だった。

男として生を受けた私は、今は女・・・いや雌奴隸としてご主人様にお仕えしている。私の名前は愛花（マナカ）、元の・・・男の時の名前は捨てたし興味もない。

今の私は愛花、被虐と隸属の快楽に支配された女だから。これは私が普通の男から雌奴隸へと堕ちていくまでの話。

第一章『マゾメス男子の探し方』

まずは奴隸にするためのマゾメス男子を探しましよう。

マゾメス男子を探す場所はSNSが最も効率よく、なおかつ顔や体もわからるので会った時のミスマッチが怒る可能性も下げることができます。特に女装アカウントでアダルトな内容を投稿している娘がおすすめです。

俺は都内の大学に通う地味な大学生。

サークルに所属して仲間とキラキラした学生生活とは程遠い生活を送っている。授業が終わればすぐに帰宅する。そんな生活を送っていた。

でもそんな俺には人には言えない趣味があつた。

それは女装だった。そしてその写真をSNSにアップしてからもらうことで小児欲求を満たす生活を送っていた。

もちろん女装で外出する度胸なんてないから、大学に進学して一人暮らしになつたのをい

いことに、自分の住んでいるアパートの中だけで女装を楽しんでいた。

一度夜にごみ捨てを女装でしてみたことがあるけど、そのときは心臓が爆発するんじやないかつてくらいにドキドキして、もう二度としなくていいと思った。

SNSを見ると、女装でお出かけどころか飲食店や居酒屋に行っている投稿を目にするけど、自分にはとてもできないと思うし、羨ましいような嫉妬するような複雑な気持ちになってしまいます。

始めたばかりのときは♡が一つでも付けば喜んでいたのが、最近は♡だけではなく、どれだけの人に見られているか、何人フオロワーが増えたか、そればかりが気になってしまふようになつた。

「あれ・・・この人って・・・」

俺は自分がフオローしている女装さんの投稿を見ていると、♡をつけてる人の中に見覚えのあるアカウントを発見した。

それは以前よく♡やコメントをくれた人で、最近全然見かけなくなつた人だつた。

それが他の人、しかもエロ写真や動画中心に投稿している人のところに行くなんて・・・もちろんこれは勝手な嫉妬だし、SNSで誰を推すかなんて個人の自由だつてことはわかってる・・・でも俺は悔しい思いを抑えられなかつた。

そして俺はついにエロを解禁することにした。

最初は少し脱ぐだけ、もちろんアカウントが消えないようモザイク処理をして、少し脱いだけなのに俺は投稿の送信ボタンを押すまでにかなりの時間がかかってしまった。

「えつ！？これって・・・」

投稿してからしばらくしてSNSを開くと、そこには今までに見たこともないような数のコメントが付いていた。

「すごい・・・」

俺は今までに感じたことがない満足感を感じ、エロ画像を投稿するという背徳感は消え去ってしまった。

それから俺はどんどんエロ画像の投稿をしていった。
最初は少し脱ぐだけだったのが、徐々に性器をもろに露出させて、薄いモザイクを書ける程度になり、動画も撮るようになつていった。

初めて自分の肛門に物を挿入もした。

初めは痛くて、動けなくなつてしまつたのも、動画にして投稿したら過去一番の好評を得ることができた。

ネット通販のリストを公開してフォロワーからプレゼントを貰えるようになり、お尻専用のおもちゃも手に入れた。

正直気持ちいいとは全然思えなかつたし、お尻に何かが入つていると、便意のようなんとも言えない苦しさがあるし、振動させたり、ピストン運動をさせると尿意のような感覚が出てきて不快でしかなかつた。

でもフォロワーはそんな俺が我慢して表情が良いとコメント欄は大盛りあがりだつた。

プレゼントは物だけではなく、暗号資産のアドレスを公開して現金として収入を得ることもできた。

そこからさらに動画投稿サイトでファンクラブみたいなものを作つてサブスク収入を得るようになつて、俺の口座にはお金がどんどん貯まつていつた。

もちろん大学を辞めて就職をしないという選択肢が取れるような収入ではなかつたけど、お小遣いには十分な収入を得ることができた。

そしてそのお金で様々な道具を買つて、さらに動画や写真作品を作つていつた。

「ん～・・・なんかそろそろ新しいことしないとかな・・・」
しばらくすると俺のフォロワーの増加も成長が鈍化した。

もちろん今までとは比べ物にならないくらいの♡やコメントが来ているのは事実だった。
でも一時期の増え方からすると最近の増え方は鈍いように感じてしまう。
なにかまたバズれるネタはないかそればかりを考えていた。

フォロワーとオフパコしてみるとか・・・いやいや、それは少し怖い。
単純なエロだけでは限界があるのかなと考えているところに一通のDMが届いた。

